

議事要旨

件名	平成30年度第10回 信濃川やすらぎ堤利用調整協議会	
日時	平成30年12月19日(水)午前10時00分から午後0時00分	
場所	市役所本館 6階 執行部控室	
出席者	委員 岩佐 明彦 委員 中村 美香 委員 夏井 陽三 委員 高松 智子 委員 高橋 邦夫 委員 なぐも友美 委員 井上 達也 委員 菊池 弘隆 委員 渡辺東一 委員(代理) 目黒 嗣樹 委員	事務局 新潟市まちづくり推進課 2018年度施設使用契約者 株式会社スノーピーク 報道機関 有 傍聴者 無

開会

事務局より本協議会の概要、目的等を説明。

1.ミズベリング信濃川やすらぎ堤 2018 事業報告について 説明者:スノーピーク

スノーピーク(以下, SP):

1.業績報告

- ・ 11店舗、継続6店舗、7月1日～10月14日。
- ・ 期間が長いので利用者が多いのは当然と言えば当然。一部、システム変更にともない、記録できていない部分もあるので、実際にはもっと多いと思われる。
- ・ 売上は8,700万。10月半月のぞいても、1000万増。7・8月の天気が良かったことが影響しており、9月以降は天候が悪かったことも影響している。
- ・ 印象としては平日の集客が多かった。これは認知度の向上・各店のサービスも良くなってきていることが影響しているものと思われる。

2.イベントの実績報告。15件。未実施も数件あった。

- ・ 左岸のワークアウトが定期的開催。
- ・ 音楽イベント。JR東日本の水上舞台など、これまでになかったものも開催された。
- ・ キャンプは計画したができなかったため、次年度にむけた課題。

3.SNS活用実績。

- ・Facebookについては +250件いいね。
- ・92回投稿。イベントや店舗紹介など。
- ・事務局の手が回らず、店舗紹介も遅くなってしまった部分があったので、もっと戦略的に投稿を行えば良かった。
- ・インスタグラムはFacebookと投稿連動。男女年齢比はFacebookと変わらず。
- ・全体的に良いコメントが多かった。

4.アンケート結果

- ・「何で知りましたか？」の結果はチラシ等のアプローチが少なかったため、それによっては結果が変わったかもしれない。
- ・「利用後の感想」で楽しめなかったは天気の影響や料理が高いなどの理由。
- ・「昨年度の利用」では、3割昨年からのリピーター。7割新規。
- ・「昨年との比較」で変わらないは、このまま続いてほしいというニュアンス。であった。「悪い」は料理の味・金額についての感想であった。

5.課題について

- ・2017課題に対して
- ・営業期間・時間の統一が課題であり、今年度は統一を図った。10/14日までとしていたが、2店舗ほど、店舗の人員的な問題で営業停止となった店があった。
- ・また、悪天候に対するテント等の対応も、各店舗で対応可能にしたことで問題なく対応できた。
- ・出典店舗レベルについては店舗造作により屋台感が払拭された。
- ・ゾーニング・コンセプトがしっかりしている店舗は実績に結びついていた。
- ・地域イベントとの連携では事務局の体制が甘く理想形ではなかった。
- ・イベントゾーンの設営等で新しく参画する事業者が出てきた。水上舞台は初の取り組みとしてよかった。

- ・2019への課題
- ・事務局の体制が甘く、毎週のイベントとまではいかなかった。
- ・申請のフローがよくなかったため、ご迷惑をかけてしまった。これは告知・案内にも影響していたところがあった。
- ・地域イベントへの連動はこれまで取り込めていない層を取り込む工夫を行う。

2.ミズベリング信濃川やすらぎ堤 2018 評価について 説明者:新潟市まちづくり推進課

事務:評価方法項目について説明

評価シートと評価結果を説明

=== 評価項目1～4 について説明 ===

岩佐: 評価軸はいろいろあるなかで良く取りまとめているが、4(1)賑わいの創出で厳しい評価で「チラシ・ポスターの検討設置が不十分」となっているが、やって効果があるかということで、トータルの戦略が必要ではないか。

中村: 確かに先ほどの報告ではSNSの反応は概ねよかったという報告もされている。

井上: 事業目的で成果が得られた。となっているが、これは昨年に比べてということか？

事務局: 報告にあがってきた数字が前年度に比べて上がっているという点で判断している。

井上: 営業日数が増えているので、絶対数として増えていることを評価してよいのかというのは疑問。日数が伸びた分に比べて、客数の伸びはあまりよくないように感じる。評価自体は3でいいと思うが。

岩佐: チケット制の導入に関係するが、どういう人に来てほしいか、属性がどうかという課題もある。客単価2,500円は飲食としては高い。学生や若者からすると敷居が高く、売り上げをみると単価の高い層が来ているように感じる。

中村: 多様性をどのように評価するかということにもつながってくると思う。

高橋: 昨年度もそうだが、若者メインの結果報告となっている。家族連れ・高齢層をどのようにするかは議論されていたが、今年度トライしていないようで、そこをどうするか。また、事業目的は3でいいと思うが、どの段階までできていたかという評価をした方が良く思う。事業目的は3つ「来街者の誘致の拠点」「回遊性の向上」「地域の活性化に資する」という3項目で構成されているので、それぞれにどう対応しているかという視点で評価されているとよい。

高松: 高橋委員の意見に賛同する。事業目的の評価が一番求められるところであると思う。現場にいった印象としては若者が多かった。やすらぎ堤はいこいの場でどなたにも利用されるのが目的。周りに聞いてみても知らない人が多いので、一人の人がたくさん利用しているという状況だと思う。もっと市民に広く知ってもらう必要があるのではないだろうか。

中村: 評価は目的にリンクすること。また、先ほどの岩佐委員の意見もあったが、広報がもっと戦略があっても良いのでは。

高橋: 目的はその後の項目にもリンクするように思う。

岩佐: また、今回は水土という大きいイベント類があったが、そこと連携できなかったところの振り返りは行ってほしい。年間通したスケジュールと調整できなかったか。

事務局: 市の評価の厳しいという意見もあったが、4(1).にぎわい創出について評価をあげても良いのではないかという、ご意見と捉えてよろしいか？

岩佐: 評価は2でもいいと思う。ただ、チラシ・ポスターを撒いておけば良かったのかという点は疑問が残るという意味合い。

高橋: 使用区域はどういった評価項目か？

事務局: 評価内容としては期間の方が重要。特記仕様書の記載上、区域が評価に入ってきているが、内容としては可もなく不可もなく実施してもらったと認識している。

=== 評価項目5～6 について説明 ===

岩佐: 新潟市の評価が厳しいと感じた。評価軸が期待を上回っているのもそうなるのかもしれないが、もし4をつけるならここは4ではないかな、と感じる。

事務局:3であれば事業者の成果としては十分、すべて3なら大変素晴らしい。4は自他ともに認める、想像以上、というくらいの意味合い。

SP:合計はなにかに関係するか?

事務局:いまのところ関係はしない。

SP:今年、単年でみたときという視点もあるが、昨年からみたときに悪くなっているところはないのではないか、事業者としては感じている。

事務局:SPとして自信あるところは4で自己評価してもらってよいと思っている。ただ、市としてはそれをそのまま受けるということではなく、客観的な評価にしたいと考えている。また、点をつけるというところが大きな目的でなく、SPの自己評価と市としての評価を共有したいというところ。

高橋:イベントについて、実施回数が評価になっている。質の面の評価も必要ではないだろうか。ただ、開催してそれを評価ということではなく、事前に計画してオーソライズしておくことも重要。

中村:イベントの参加人数などの情報も重要。

事務局:イベントの概要については参考資料に記載。

井上:イベントについて報告スライドでは15件、評価シートでは13件となっているが?

SP:合計で15件実施が正しい。

中村:(2) イベント開催の評価は2でよいか。

高橋:そもそもグランピングとは何をやる事業であったか。

SP:スノーピーク本体では数十万する事業だが、やすらぎ堤で行うこの事業自体でグランピングが行えていると考える。グランピング事業では体験価値に重きを置いている。エッセンス・考え方で言えば、「屋台感」から脱出するためのグランピングという言葉を使っている。

井上:参加者数の伸びだけでなく、売上が伸びるということは滞在時間が伸びているという評価もできると思うが。そういう評価もあるのではないだろうか。単純にこのデータで滞在時間がのびたとは言いきれないが。

岩佐:確かにそこは評価すべきポイントかもしれない。

高橋:販売価格自体の影響もあるので一概に滞在時間との関係性を断言できないが。

なぐも:滞在時間は測定が難しいと思うが、グランピング事業は3になっているが、本当に空間自体は素晴らしいと思うので、もっと大きな評価でもいいとも思う。リピート客については、自己評価と市の評価で相違が大きいので溝を埋める必要性を感じた。

中村:居心地の良さは皆さん一致しているので、グランピングにもう少し追加してもよいのではないかな。その他の意見はどうか?

岩佐:アウトドアオフィス、キャンプフィールドが実施できていないが、スノーピーク側の瑕疵か、そもそもできないことなのか、それによって評価が分かれるところであると思う。これはアタックすればできたということなのか。

事務局:可能性はあったということで両者認識している。

中村:一番の支障となった問題はなにか。

事務局:安全対策が大きな問題と感じている。

中村:アウトドアオフィス事業などは正直言ってできたのではないかと思うが、正直な理由としては?

SP:事務局の体制が甘く、企業にPRできていないというところが大きい。

岩佐:アウトドアオフィス事業は全国できているが、付き合いで一度利用するくらいで、どこも苦戦していると聞いている。やるのであればターゲットは絞ったほうが良いと思う。

中村:来年度実施の可能性はあるか?

SP:検討が必要であるが、可能性はあると考えている。

井上:利用する人の駐車場代などの問題もある。

高橋:そもそも天候が悪ければ予定していた会議を行えない、などの問題もある。

井上:商工会議所のまちづくり委員会などで使ってもいいと思うが。

高松:東京方面ではカフェを利用して個人・小規模で打ち合わせなどもしているのですが、そうした利用の提案もできないか。

中村:丁寧に計画することで、実現可能性があるのではないかと思う。

事務局:事務局も事業者も可能性はゼロではないと考えている。

高橋:グランピング事業は設えをもって評価しているのであれば、4でいいような気がする。

事務局:昨年度の変化については大きく評価しているが、昨年度の実績もあるので3としている。

高橋:ウッドデッキなどの設えも非常に良かったので評価しても良いのではないだろうか?

岩佐:焚火のチャレンジはキャンプフィールド事業として評価しても良いと思うが。

SP:当社としてのキャンプフィールド事業は本社では焚火や泊まることだけでなく、一連の流れをパッケージ化したものとなるので、ここでいう焚火とは異なる。

岩佐:本来のキャンプフィールド事業は焚火程度ではないということか。

=== 7~10 について説明 ===

中村:市の評価は3が多いが、できているけど4ではないということか?

事務局:期待を大きく上回るというものが4としている。

岩佐:調査協力について、市が依頼したものということか、

事務局:そのとおりである。

岩佐:近年はエアレジなどの活用で取得できる情報が多い。営業情報の取扱い等の問題はあるが、滞留性等の分析も可能かもしれないので、来年度は協議しておいたほうが良いかもしれない。

岩佐:苦情対応は役割分担がしっかりできていたかも重要でないか

事務局:役割分担は行っていた。

中村:ある程度は行っていたという意味での3か?

事務局:そのとおりである。

3.今後のスケジュールについて 説明者:新潟市まちづくり推進課

事務局:今後のスケジュールについて説明

中村:営業開始をみるとかなりタイトなスケジュール。出店者からは6月からもできるという声もきいているがその点も踏まえたものか。

事務局:複数の出店者からは6月にできるという声ももらっている。また、イベントであれば出店期間外でも可能と考えている。

中村:今年度中に一度開催を予定しているということで各委員、ご承知おきいただきたい。

4.意見交換

井上:正直な感想として、事業者として10月14日までというのはどうだったか?

SP:天候に左右されるところが大きい。当社としては9・10月のキャンプシーズンを売り出したいが、まだまだ、夏のビアガーデンのようなイメージが強い。常設用でないテントなので最大3か月程度しかもたず、その3か月をどこにあてるかということになる。実績の良い出店者からも10月の対応は厳しいという声ももらっている。

中村:寒さ対策ができれば可能ではないだろうか。

SP:出店者からの意見でも出てきたが、7・8月来場した人に9・10月の提案ができなかった。結果的に9・10月の利用者は伸び悩んだ。やり方としては秋口を夏の延長戦でなく、秋は週末イベントなど構成にするなど2段にわけようというやり方もあると思っている。

中村:デンマークは冬でも寒さ対策をして、普通に外でイベントを行っていたりする。

岩佐:京都の川床のように名称があると浸透しやすいと思う。新潟独特の名前がつかるとよい。

なぐも:県央地区の工場の祭典などは参加者のリテラシーも求めているなど、コンセプトがしっかりしている。若い方の飲食のためのただのビアガーデンだけでない。というコンセプトの打ち出し方も重要ではないだろうか。

中村:以前に協議会で意見の出た「やすらぎ堤スタイル」にもつながると思う。

なぐも:スノーピークとしてやれないところは捨ててもいいと思うが。

中村:来年度事業計画を立てる参考にしてほしい。本格運用にむけた広報戦略をどうとらえるかというのも重要だと思う。

岩佐:先ほど意見に出た工場の祭典もブランディングが非常にうまい。この事業もブランディングが重要だと思う。

中村:目黒委員からもなにか意見はないか？

目黒:管理者という立場では、評価はあまり口出ししないようにしていたが、事故・事件がなくというところで終わったというところは良かった。また、一定の認知度が出てきているように感じる。個人的な意見としては、スノーピーク・出店者の関わり方、出店者含めて、どう事業目標にむかっていくかというのも一つの指標ではないかと思う。

閉会

事務局:事務局側も2年目で高いところも望んでいる。また、関係者の要望もおのずと見えてきた。委員からの意見からも出てきたが、できないところを無理にやれということではなく、いかに得意分野を伸ばしていくかということが重要だと感じている。また、出店者との意見も拾いながらいい方向に伸ばしていきたい。

以上